

学力の生産関数の推定

国立教育政策研究所 妹尾 渉
広島大学大学院社会科学研究科 野崎祐子
早稲田大学理工学術院 篠崎武久

概要

本研究では、2007年から2009年に文部科学省が実施した「全国学力・学習状況調査」の都道府県別に公表された結果を用いて3か年分のパネルデータを作成し、公立小学校児童のテスト結果を従属変数、小学校教育費や教員一人あたり児童数などの学校投入資源を独立変数として、学力の生産関数を推定した。2000年代に入ってから日本において特に関心が高い学力低下問題に鑑み、分析の対象として、平均点の他に下位成績層の分散に着目した点が本研究の特徴である。具体的には、テスト結果の50パーセントタイルと10パーセントタイルの比を「下位分散」と定義し、それがどのような要因によって変動するのかを検証した。分析の結果、教育関連予算の増加は、平均点の上昇には有意な効果を持たないが、下位成績層の分散を縮小させる効果を持つことが明らかになった。